

Paxata



株式会社トウ・ソリューションズ

キューピーグループ各社の経営および事業部門のICTを推進する企業として、最新の情報技術とグループの業務ノウハウを活かし、お客様のニーズに合わせた食品の製造・販売に関する最適なソリューションを、グループ内外に提供しています。

本社：東京都調布市仙川町2-5-7 仙川キューポート  
 設立：2005年4月  
 資本金：9,000万円  
 従業員数：124名（2017年11月末現在）  
 URL：https://www.to-solutions.co.jp/

（取材日：2018年9月）

POINT

働き方改革にあたり、データ加工が業務のボトルネックになっていることが判明

データを必要とする誰もが、自分で簡単にデータを準備できるセルフサービス化を実現

データ準備のノウハウをPaxataで共有し、グループ全体で利用

キューピーの働き方改革を支える  
 グループ共通のデータ基盤にPaxata  
 業務を徹底的に見直して、データ加工を全面的にセルフサービス化

キューピーグループのデータ活用戦略を主導するトウ・ソリューションズは、分析用データを準備する作業効率の改善とセルフサービス化に向けて、データ・プレパレーション製品「Paxata」を導入。Microsoft Excel（以下、Excel）でのデータ加工と比較して最大98%の工数を削減し、飛躍的な生産性の向上を実現しました。

課題	対策	効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■企業のデータ活用の観点から、Excelによるデータ加工の手法そのものを見直す</li> <li>■必要なデータをタイムリーに準備できず、機会損失につながるリスクを懸念</li> <li>■個人のスキルに依存したデータ加工では、ノウハウが共有されず属人化が拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■グループ共通のデータ基盤としてPaxataを導入し、データ加工を劇的に効率化</li> <li>■新しいテクノロジーを採用した課題解決として、データ・プレパレーションに着目</li> <li>■ユーザー部門向けにハンズオンセミナーを開催し、データ加工のノウハウを共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■データ準備にかかる工数を最大約98%まで削減し、タイムリーな分析を実現</li> <li>■グループ内の15以上の部門で、セルフサービス型のデータ準備を開始</li> <li>■データを全く新しい方法で扱えるようになり、生産性の向上と働き方改革を推進</li> </ul>

システム概要



# Paxata

## 今まで当たり前だった Excelでのデータ加工が課題に

2005年に株式会社中島董商店とキューピー株式会社（以下、キューピー）の情報処理部門が統合して設立された株式会社トウ・ソリューションズ（以下、トウ・ソリューションズ）。キューピーグループ各社のシステム設計・開発・保守・運用を担うとともに、食品業界における豊富なノウハウを活かして「食の安全・安心」に関わるソリューションをグループ内外に提供しています。

キューピーグループのデータ活用の取り組みについてお聞かせください。

以前よりDWHやBIツール等を利用して、社内データの活用環境は整備していましたが、多様化するニーズに対応して安全・安心な商品を提供するためには、社内のデータだけでは不十分になってきました。DWHにはないデータや、外部の統計や購買データなど、社内外のデータを組み合わせたデータ分析が求められるようになってきたからです。しかし、社外データはそのままの状態では利用できません。現場の担当者は、データを活用しようとすればするほど、Excelを使った事前のデータ加工に追われるようになりました。

データ加工にはどのような課題がありましたか。

Excelでも100万件程度のデータを扱えるようにはなりましたが、実際には頻繁にフリーズが発生したり、処理中は他の作業ができないなど、簡単には大量データを扱えません。また、複雑な加工になるほど高度なスキルが必要になりますが、マクロや関数を駆使できる人は限られており、属人化も発生していました。新しいデータを入手したら同じ作業をまたイチから繰り返すなど、効率や生産性の課題も顕在化してきたため、グループ全体としての解決が必要でした。

## 「業務のシンプル化」をキーワードに 働き方改革を推進。中核を担う データ基盤にPaxataを導入

業務のシンプル化では、具体的に何に注目されたのでしょうか。

キューピーグループの働き方改革では「業務シンプル化」という活動を実践しており、業務の効率や品質の向上、全体最適の標準化を目指しています。例えば、「夢多 採り（むだどり）」というネーミングの活動では、単にムダを取るのではな

く、夢をいっぱい勝ち取りたいという想いを込めています。今回着目したデータ加工も、単なる業務改善にとどまらず、グループ全体のデータ活用の裾野を拡大するという判断から、グループの優先課題として取り組むことになりました。

課題解決の手段として、データ・プレパレーションを選ばれた理由をお聞かせください。

データ活用の文化を広げて根付かせるために重視したのは、わかりやすく誰でも使えること、セキュリティが担保された安全な環境で共有できること、今後も増え続けるあらゆるデータに対応できることです。Excelの達人しかできないと諦めていたデータ加工も、自分たち自身できると実感してもらえる環境が必要だったのです。

アシストからデータ・プレパレーションという概念を初めて聞き、Paxataで様々なデータが対話形式で自在に加工される手順を見て、これならExcelによるデータ加工の多くの課題を解決できると確信しました。グループ全体は15,000人の大所帯ですから、利用できるユーザー数が無制限で、初期投資を抑えられるサブスクリプションライセンスは、新しい取り組みを始めるには大きなメリットと評価してPaxataの導入を決定しました。

## セルフサービスのデータ準備で、 最大98%の工数削減に成功

ユーザー部門への展開では、どのような工夫をされましたか。

トウ・ソリューションズでは、企業価値を高めることを目的に、新技術の研究、課題解決を目指したVUP（Value Up）という活動も進めています。各部門からデータを多く扱う人を募り、データ・プレパレーションの研究活動を開始しました。店舗マスターのゆらぎの補正や、POSデータの加工で検証した結果、Paxataの機能ならデータにかかる課題のほとんどが解決されるという感触を得て、ユーザー部門への展開を決断しました。展開にあたっては、現場の担当者自身のデータの課題を解決し、成功事例を積み上げてもらうことを重視しました。実際にPaxataを使うハンズオンセミナーを企画したところ、キューピー本部だけでも10を超える部門から、グループ全体では130名の申し込みがあり、いかにデータ加工に困っている担当者が多いかを痛感しました。セミナー参加後はそれぞれの業務での利用が進んでおり、定着に向けたサポートを提供しているところです。

データ準備は、どのように変化しましたか。

劇的な変化があったのは、POSデータの加工です。Excelのシートが140店舗毎に分かれており、このシート毎に膨大な集計をしていたのですが、Paxataで実施したところ、集計時間が従来の12時間からわずか15分に短縮され、約98%の工数削減となりました。これまで1週間以上かかっていたデータの準備が即日のうちに完了できるようになり、タイムリーなデータ分析に基づいた提案が可能になりました。また、アンケートフォームの集計も60分から5分に短縮され、アンケート結果を利用した判断の迅速化にもつながっています。

現場からの声には、マクロやSQLを実行しないとわからなかった結果が、Paxataでは対話型ですぐにプレビュー画面で確認できる機能に感動する人が多いですね。また、加工手順を登録して再利用できるので、手戻りがなくなったのも嬉しい効果です。複雑で繰り返し行うデータ加工には、Paxataのようなデータ・プレパレーションツールは業務に大きなインパクトがありますね。

## RPAやAIとの連携も視野に グループ全体の共有スペース としての拡張も

今後の展望についてお聞かせください。

データ準備のノウハウを共有するスペースとして、Paxataの活用を進めていきます。今回は、Excelによるデータ加工の改善からスタートしましたが、今後はキューピーグループでのAIの活用とも強力にタイアップして、AIに学習させるための膨大なデータの準備に利用を拡大していきます。さらに、RPAとPaxataを組み合わせたデータ準備の自動化や、POSデータや製造ラインのIoTデータのフル活用など、グループ全体の幅広い分野でデータ活用の推進に役立てていく予定です。

<取材協力>（表写真左より）

株式会社トウ・ソリューションズ  
IT企画室 兼

キューピー株式会社

経営推進本部 総務部 業務シンプル化チーム

原田 学 氏

株式会社トウ・ソリューションズ

取締役 シェアードシステム部

部長 清水 透 氏

キューピー株式会社

経営推進本部 総務部 業務シンプル化チーム

担当課長 眞柄 隆 氏